

第十四回「西荻アカデミア」～文学と映像から世界を見る⑧

「『誰がために鐘は鳴る』とスペイン」

日時：2020年2月15日（土）午後2時～3時30分

場所/申込先：杉並区立西荻図書館（電話 03-3301-1670）参加費無料

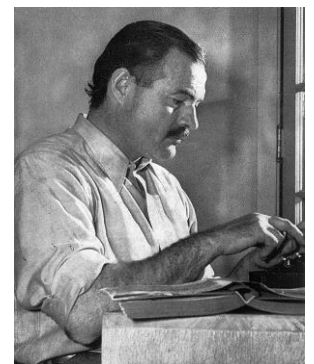
申込受付：1月15日より（「広報すぎなみ」1月15日号をご覧ください）

講師：今村楯夫氏（いまむらたてお）

主催：荒正人文化デモンストラーション研究会

後援：杉並区教育委員会

『誰がために鐘は鳴る』はスペイン内戦(1936.7-1939.3)を描いた小説です。舞台となった橋と川を訪れ、内戦の跡を辿り、小説の面白さを解き明かします。



アーネスト・ヘミングウェイ
(Wikipediaより)

今村楯夫氏プロフィール

東京女子大学名誉教授、日本ヘミングウェイ協会顧問

主著：『ヘミングウェイと猫と女たち』（新潮選書）

『ヘミングウェイの言葉』（新潮新書）

『ヘミングウェイ大事典』（監修・勉誠出版）

訳書：レイモンド・フェダマン『嫌ならやめとけ』（水声社）

ハロルド・ジェフィ『ストレート・レザー』（新潮社）



1 ピラールが足を洗った地点



2 実際は鉄橋ではなく石橋



3 ゲリラ隊はこの道の先に